

問題発見型／解決型学習(FBL/PBL)
 テーマ提案（学生募集内容） / Project Proposal

テーマ名称 Project name	不便益なモノゴトのデザイン Designing Experience based on Benefits of Inconvenience
実施責任者 Instructors	デザイン学リーディング大学院 特定教授 川上浩司 H. Kawakami, Prof., Unit of Design 総合博物館 准教授 塩瀬隆之 T. Shiose, Assoc. Prof., The Kyoto University Museum
実施協力者 Collaborators	関西大学 客員教授 谷雅徳 M. Tani, Guest Prof., Kansai University
テーマの背景 Background	「効率だけではダメだ」とはよく聞く言葉であるが、モノやコトをデザインする者にとっては「効率に代わるデザイン指針」を問われると、確たるものは思い当たらない。「モノに属するユーザビリティからコトに属するユーザエクスペリエンスへ」というスローガンはよく耳にするが、具体的な方策を問われると、これもまた暗中模索の段階にある。これらに対する一つの回答として、不便だからこそその効用（不便益）を活用するという指針あるいは方策が提出されている。
実習の概要 Overview	不便だからこそその益（不便益と呼ぶ）が得られるモノやコトを、食をテーマにしてデザインする。たとえば、モノならば調理器具など、コトならばサービスや作法などがデザイン対象として想定される。また、日本工業デザイナー協会関西ブロックが主催する学生デザインコンペの今年のテーマが「不便益×食のデザイン」であることから、当実習の成果の公開方法として、当該コンペへの応募を選ぶこともできる。 We will design products or mechanisms that implement benefits of inconvenience about food. Since the theme of this year of the design competition for students held by JIDA (Japan Industrial Designers Association) Kansai Block is “benefits of inconvenience about food,” taking part in this competition can be a way of publication of design.
実施計画、実施場所 Schedule, location	吉田キャンパスおよび京都市内。詳細は実施計画を参照。 Location: Yoshida Campus and Kyoto City.
履修条件 Conditions for participation	特になし。 No condition.
募集人数 Number of participants	3名以上，12名以下 More than 3, less than 12.
募集締切 Application deadline	10月19日（金）
応募資格 Intended participants	京都大学の学生。応募多数の場合には、デザイン学履修生を優先する。 Students of Kyoto University. In case of too many applicants, students enrolled in design school have a priority.
応募方法 How to apply	デザイン学公式 Web の FBL/PBL のページ（下記）から参加申込を行うこと。 http://www.design.kyoto-u.ac.jp/education/fbl_pbl/ 原則として先着順とする。参加の可否はメールで通知する。

問題発見や解決に用いるデザイン理論やデザイン手法 Design theories and methods for framing and solving problems	不利益, ブレストバトル Benefit of Inconvenience, Brain-Storm Battle, 既製品の不利益ハック 便利だと思うが、いまいち魅力にかける現存製品を履修者が選び、カタログなどから機能やスペックを調査し、不便だからこそ魅力的にするための商品改造（安価な製品の場合）またはシナリオ改造（高価な製品の場合）を行う。
理論や手法の学習方法 How to study theories and methods	異なるテーマで過去に得られたデザイン例を調査し、そのエッセンスを当プロジェクトのテーマに当てはめるというグループワークの実践を通して、理論を学習する。
成果の公開方法 Publication of the results	発表会, あるいはウェブに掲載, あるいは JIDA 関西ブロック学生デザイン賞 2018 に応募する。 Presentation to interested persons, posting on web pages or entering the design contest for students held by JIDA
成績評価方法 Evaluation	出席 4 割, 結果 3 割, 活動状況 3 割 Attendance rate, results of practice, and contribution to the class.
特記事項 Special remarks	テーマに関する質問があればメールで受け付ける。 We accept any question by e-mail to kawakami@design.kyoto-u.ac.jp

実施計画 / Schedule

コマ Unit	日程 Date	場所 Location	実施内容 Content
1-2	10 月下旬 late Oct.	吉田ファブ	導入と課題説明。以降の日程（13 コマ分、1 月末までに実施）と場所の調整。
3-4	11 月上旬 early Nov.	吉田ファブ	既存デザインの調査と便利害抽出からのアイデア出し。 問題解決型思考によるアイディエーション。
5-6	11 月中旬 mid. Nov.	吉田ファブ	価値発掘型ならびに創発型思考によるアイディエーション。 ブレストバトル実施。
7-8	11 月下旬 late Nov.	吉田ファブ	モックアップ製作または構想カタログの作成。 改良意匠図、または製品自体の改造、レンダリング。
9-10	12 月上旬 early Dec.	吉田ファブ	同上、ならびにプレゼン向けパネルレイアウトのまとめ。
11-12	12 月中旬 mid. Dec.	吉田ファブ	プレゼン向けパネルレイアウトの作成、必要ならばエントリー（12 月 25 日締切）
13-15	1 月中旬 mid. Jan.	吉田ファブ	デザイン案のプレゼン資料完成と発表, あるいは提出（1 月 30 日締切）